

38 透析導入期の指導に対する取り組み (患者教育に関わるチェックリストを使用して)

組合立諏訪中央病院

看護部透析室¹⁾ 臨床工学科²⁾

中村 綾¹⁾ 杉木由佳¹⁾ 三浦美雪¹⁾ 矢崎親子¹⁾ 大崎真起¹⁾ 穂川奈美¹⁾ 小林直子¹⁾

熊谷市子¹⁾ 細川 泉¹⁾ 堀内和美¹⁾ 水嶋和美¹⁾ 山本あき子¹⁾ 柳澤安毅²⁾

【はじめに】

近年、透析導入患者も高齢化し、導入期の患者教育やクリニカルパスの導入により病棟間との情報や教育内容の共有化が重要になっている。

しかし、クリニカルパスでは一定期間の教育で患者がどの程度理解できているかなど、問題点もある。維持透析を行う中で患者再教育に発展させるため、透析室と病棟間で試験的に透析患者教育に関わるチェックリストを作成し導入患者に使用して個々の患者に合わせた、継続的な教育が実践できたのでここに報告する。

【方法】

平成20年5月～平成20年7月に透析導入された患者3名にチェックリストを実際に使用し、病棟看護師2名と透析室看護師1名に対しチェックリストの使用評価についてアンケート調査を行った。

【結果】

アンケート結果から病棟では、透析導入に関わりチェックリストを使用したスタッフが少なく、アンケートの回収率が45%となってしまったため、使用したスタッフに聞き取り調査を行った。透析導入チェックリストを使用したスタッフから、患者のどのタイミングで指導したら良いかわからなかった、チェックリストの項目については必要な指導項目がおちがなくなりよいのではないか、という意見があった。

今までの透析記録で透析中の看護が理解できた、という質問に対して理解できないスタッフが透析室54%、病棟は36%だった。

チェックリストを使用しスタッフが透析室では54%、患者指導がスムーズにいったスタッフは36%だった、チェックリストに対する意見では

- ・病棟の指導が分かる患者の理解度もやや分かる
- ・今まで入院患者の指導はお互いに分かりずらく共通のプログラムがあると良いので、このまま活用したらよい
- ・前回の患者の反応、コメントが書いてあり、自分が担当した時に様子がつかめて良いと思う
- ・今まであまり申し送りのなかった内容がのっていて良いなどの意見があがった

【考察】

導入となる患者は高齢化し、合併症を抱え、理解度も様々で、置かれている生活や社会環境も違う。その中で入院中、病棟と透析室の申し送りは、患者の身体的な状態と、透析中の経過が中心で、患者の精神的状態、透析導入時の指導内容、その時の反応、理解度などは、ほとんど申し送りがなく、お互いがバラバラに指導していた。

今回導入患者の指導に対して、共通のチェックリストを用いる事で、情報の共有化が図れた継続的な教育が行えた、スタッフには有効だった。

しかし、導入後患者に病棟での指導はどうだったかと聞いた際「あまり覚えていない、何も言われなかった」などの言葉が聞かれた。チェックリスト上では指導は行われ、その時の反応なども記載があった、これは患者にとっては有効だったとは言えない、この声を病棟へもフィードバックし、1回行ったら終了するのではなく、個々の患者に合わせた分かりやすい指導をし、その時の患者の反応などを、更に細かくチェックリストに記入することにより、状況が把握でき、お互いが連携していくことで、患者にとってより良い看護につなげられる。齊藤らは「患者さんにとって、透析導入は人生の中の一大事です。

その時点を安全にまた最小限の不安で通過できれば、その後の透析ライフに自信がわき、好影響をもたらします」と述べている、透析導入期に関わるスタッフの情報の共有化は患者のこれからの維持透析に大きな影響を与えてしまう、患者の些細な事も記載できる、チェックリストは有効であるといえる。

【結論】

高齢者透析導入患者や糖尿病性腎症等、様々な問題を抱えての透析導入増がえている現在
導入に関わるスタッフの情報の共有化は重要である。
今後チェックリストの内容を修正し電子カルテへ
のせていくことで、患者にとって有益なより質の高い
患者指導へとつなげていく

引用文献

- 1) 齊藤 明；新人ナースのための透析導入マニュアル、メディカ出版、1991

参考文献

- 1) 及川 さおり：血液透析導入時指導チェックリストの再検討、岩手医誌 56 巻、3 号 p 239-245、2004.